

今連盟だより

第7号

昭和62年11月1日

発行 静岡県家庭婦人バレーボール連盟事務局 〒426-02 藤枝市時ヶ谷387-39 ☎ 0546-43-0791

明るい輪の充実をめざして

理事长 中西 滉子

終戦の年、昭和二十年に女学校に入学した私は、クラブ活動に排球部を選びました。

ともかく食糧難の時代で一日中お腹をすかしておりましたがそれでも、放課後になるとアメリカの飛行機が空襲してこない青空の下、まず、石ころだらけのコートの石拾いをし、等地で整地し、すぐボソボソになってしまふボルの手入れをしてから先生の特訓に汗を流したものでした。そのころにコートの中でも生まれた友情は今でも続いておりますが、卒業してからも今日まで、バレーボールとの付き合いも続いております。

現在では、立派な体育館があちこちに建設され、私たち家庭婦人までその中で練習をしたり、大会に参加できたりの幸せなよき時代になつたものと思ひます。

県バレー・ボール協会の暖かいご指導のもと、私たち県家庭婦人・バレー・ボール連盟も創立十三年となり、未熾ながら大会運営（競技、審判）を自分たちで出来るようになりました。

役員のみならず、指導者講習会、バレーボール教室、審判講習会等へ積極的に熱意を持って参加して下さる各チ

ームの皆さん、ママさん、バレーに対する意識の向上が、連盟を育てる原動力になつてゐるのだと思います。

私たちの楽しみのために協力して下さる家族への感謝を忘れることなく、主婦であり母親である責任を果し、その上で楽しくバレーボールに接しているのです。

私の願いは、扱うボールの種類が違つても、バレーボールを愛好する多くのママさんが、地域社会の中において親しく手を結び合い、仲良く交流し、お互いに健康づくり、輪づくり、精神力づくりの場であることを再確認しています。

本年度は役員改選の年に当り、私は理事長という大役を仰せ付かりました。

綾部会長、相談役の先生方のご指導を受け乍ら、新役員の皆さんと共に、明るく、楽しく、美しく、運営目標のもとに、登録された各チームの皆さんのご協力を得て、明るい輪を拡げ、充実した連盟づくりへの努力をしていきたいと思ひます。

よき指導者をめざして

指導普及委員長 碓井 静子

バレー・ボールが大変さかんになり、小学生からおかあさん達まで、沢山のチームがありますが、よき指導者が少ないのが現状です。

連盟指導普及委員会としては、初心者の育成と共に、よき指導者になるために、毎年指導者講習会、バレーボール教室を計画し実施しております。ぜひ一人でも多く参加していただき、魅力のある指導者、信頼される指導者を目ざし、この機会を大いに、利用し、みんなから、親しまれるチーム作りに生かしてほししいと思います。

帰れない時が多い。

そして今年は競技委員長という大役を仰せつかつてしまつた。競技の仕事に初めてついた私は、その仕事の多いのに驚いた。組み合せ等大会前の準備は言うに及ばず、大会当日は朝から晩まで氣の休まる暇がない。あつちでも、こつちでも競技委員長と声がかかり、身体が二ツも三ツも欲しいくらいだ。それに仕事の要領が悪いので、よけいに周囲の人達をいらいらさせる。今まで役員とは名ばかりで過ごしてきたツケが廻ってきたようだ。

でも、持前の樂天的な性格で乗り切るより他に方法がない。

「皆さん、ご協力をよろしく！」

さわやか杯争奪

第11回 静岡県家庭婦人バレー・ボール大会

62.9.6
藤枝市民体育館 他
東部 40チーム
中部 26チーム
西部 16チーム

お久しぶりですネ!!

磐田クラブ

何年ぶりかの大会出場。当日の会場に集合した時には、大変な大雨であり、私達の久しぶりの出場に天気までも涙を流し歓迎してくれたかのように思いました。

県大会に参加して

熱球クラブ 広井 政江

九月六日清々しい秋晴れの中、大好きなバレーレーが出来る幸福感に浸りながら、全身に闘志をみなぎらせて家を出ました。しばしおの事、子供の事等語りながら、会場へむかいました。

緊張のうちに、開会式も終り、二俣クラブの方に便乗させていただき、会場を移動し、試合開始となりました。

一試合だけは勝とうと心に決めコートに入つたのですが、相手チームのスピードのある、フローターサーブの変化球についていけず逆転され、三セットで負けてしまいました。

今後に、レシーブの強化、トス、アタックへのつなぎの不手際等、多くの反省点を残して、チーム結成二回目の出場となつた、今大会も終りました。

さすが県大会、精銳揃いです。役員の方もまとまっていて、私達は安心して、試合をす

ることが出来ました。

スポーツを通しての人間関係の素晴らしさ、健康を維持出来る事の喜び、精一杯力を尽くせる事への充実感等を味わいながら、体力の続くかぎり、頑張っていこうと思っています。

西部地区予選に参加して

飛翔クラブ 棚葉悠紀子

最後のボールが相手のコートに落ちて「アヤつと県大会への切符が手に入つた」と思いました。

昨年一回戦で敗退し、今までの一年間、何かにつけ話題になつたのがこのことだったと思います。

結成一年目にはじめて出場した『さわやか杯県大会』三位という味が忘れられず、毎年挑戦して来ましたが、今一枚のかべを破ることができませんでした。

バレーラバー人間が集まつて七年目、練習不足を氣力で補つて県大会へ出場できることに意義を感じ、参加する以上いい試合をしたい、一つでも二つでも勝てたらと大きな希望を持って練習に汗を流しています。

さすが! 敬服いたしました

岩松クラブ 望月 富子

それは、夏休みまであとわずかと迫った七月十八日の夜のことである。

その日の午後三時頃、私はいやに体がだるく、何となくふらつく感じを覚え、測ったこともない体温など測つてみると、珍しく三十一度ちょっと発熱していた。

ついに体力の限界を越えてしまつたかと、さつそく一人、床をのべ横になつた。誰もいない家のなかでひとりうつらうつらしていると、

熱が上がっていくのがわかるようだ。目のまわりがいやに熱く、手も足も動かすのもつらいほど重くなつた。

六時過ぎ、主人や子供たちも帰宅し、それぞれ顔をみせ、言葉をかけてくれた。夕食をつくれないことを詫びつつも、私の頭の中は、明日の『さわやか杯東部予選』のことがしきりに浮かんでは消えた。

台所で主人が何やらコトコトやっている。それを夢うつつのように聞きながら、これではとても明日は無理だろう。たとえ熱はさがつても起き上がりがれないとおもつた。う思いがあつた。

遅い夕食ができ上がり、のそのそ起き上がつたついでに、一番気がかりな明日のバレーに出かけられない旨を、まず副理事長の大川さんに電話をした。「それは大変。ゆっくり休みなさい」という甘い言葉を期待して。

ところが、大川さんからの返事は意外や「あすは、ものすごく忙しく、一人でも手がほしい。熱が下がつたら、何としても出かけてきてほしい」というものであった。言葉は丁寧であるが、一步も退かない強さを感じられた。

私は頭の中がしびれるようであつた。ガーソンと圧倒されつゝも心のどこかに「なんてすごい人だろう。なんてすばらしい人だ」という思いが、すごい勢いで湧き上がつてくるのが感じられた。

それにしても、こんな状態ではとても行けないし、主人にも行くなんて言えたものではない。次に事務局次長の山田さんに電話をし

た。もちろん、ひそかに甘い言葉を期待して。

しかし、山田さんからの電話は、さらにすごいものであった。「すぐに注射を一本打つてもらいたい。そして、薬を飲んでぐっすり眠れば、明日の朝は下がつていいよ」

私は、甘い気持ちなどこつぱみじんに碎けとんてしまつた。なんだか一変に熱も下がつてしまい背すじまでシャンとなつたようなショックであった。注射よりも何よりもこの一言は私の心の中に強烈なカンフル剤となつて打ちこまれ、みごと翌日は熱が下がつてしまつた。もちろん、当日は夕方六時すぎまでつとめることができたのである。

このできごとによつて、私は、家庭婦人が今日ある所以を強く納得することができた。そして、家庭婦人を築いてきた人達のすさまじいまでの気迫に、自分の生きざまをぶちのめされる思いであった。

彰表

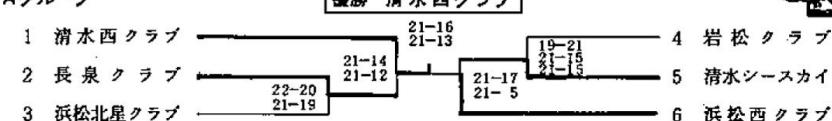
さわやか杯争奪

第11回 静岡県家庭婦人バーボン大会

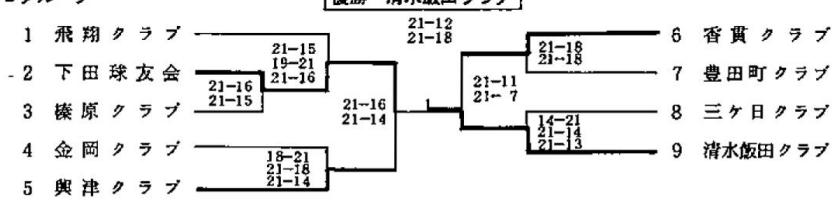
県大会 ★ 成績結果 ★



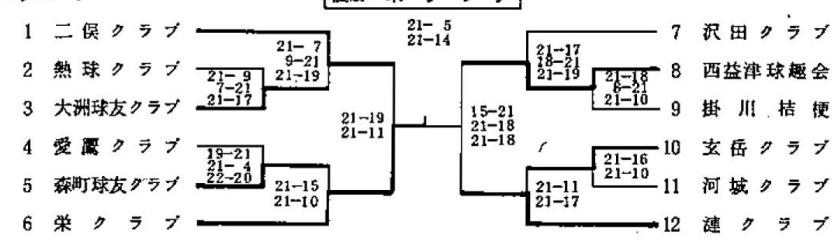
Aグループ



Bグループ



Cグループ



さわやか杯参加選手最年長者として、西益津球友会の中西満子さんに、例年のように特別賞として記念ボールが授与されました。

(なお当日、中西さんは理事長として総指揮をとり、その上テレビ解説も受け持ち、緊張かつ大変多忙な一日でした。)

第18回 全国家庭婦人バレー ボール大会

62. 7. 31~8. 3
於 東京駒沢体育館 他

全国大会に出場して

静岡 観山 マミ

主将 寺嶋

全国大会出場を目指し結成した私たちのチームも四年目にして念願がかない、静岡県の代表として出場権を獲得することができました。

駒沢体育館での開会式の感激、楽しい交歓会、そして親善試合等たくさんの思い出ができました。トーナメント戦では惜敗し悔いが残りましたが、この経験を生かし、これからチーム作りに役立てるかもしれません。

全国大会出場に際しましては役員の皆様、その他大勢の方々に大変お世話になりました。ありがとうございます。そして、これまで指導して下さった監督、コーチをはじめ協力してくれた家族に感謝しております。

監督 新井 札子

初めての監督経験で、自分自身平常心で選手を掌握出来なかつたことを反省しています。尚、多くの方々に御協力頂きました。

小林 幸子

念願の全国大会に出場させて頂きましたが、全国のレベルの高さに井の中の蛙である事を痛感いたしました。

長谷川定子

試合、惜しくも一試もいえず虚しくやるつきました。

運び、今では全国大

会という大きな大会に出場できた事で良い思い出になり満足しています。

志田 隆子

三セット目21対19で負けた試合は大変残念でした。

でも、ママさんバレーで全国大会に出場でき、一生の思い出になりました。

金森千勢子

全国大会を目前にして義母が倒れてしまい練習に満足に参加できませんでした。チームメイトや応援して下さった皆様におわびします。

鈴田 典子

一生に一度の大会に出場できて大変光栄思います。

ただ、三セットめ19対19でサーブを失敗してしまった事は一生悔いが残ります。

森 文子

試合に負けたことはとても悔しかったけれど、全国大会に出場できてよかったです。

望月アツ子

審判を勉強し東京大会で副審をさせて

いたいた事、緊張の中での開会式、声をからせての応援をいただきがんばろうという気持ちとは反対に体はコチコチ、試合は本当に残念でしたが思い出いっぱいい。皆様にお世話になり、すばらしい体験を致しました。本当にありがとうございました。

下山ミサ子

三度目の決勝戦で優勝でき、念願の全国大会に参加でき良い思い出ができます。ただベストコンディション、ベストチームワークで行けなかつたのは残念です。しかし、今ビデオテープにて試合を見てなつかしい思いにひたる事ができます。やはり全国大会に参加できたことは家庭婦人にとって最高の思い出になるものだと思いました。

合田真知子

開会式の華やかさと参加者のレベルの高さに圧倒され、大変な所に来てしまつたなあーというのが実感でした。それでも参加できたことが嬉しく、チームの人とも三泊も同じ部屋でごし親しくなれて良かつたです。

服部一二四

入場式の緊張感、ほつとした所で炭坑節、阿波踊、又他県の人との親睦、楽しめた。第一試合で負け、涙で終つた思い出の多い全国大会だった。

全国大会県予選に初参加して

三ヶ日クラブ

全国家庭婦人バレー・ボール大会地区予選、役員の方の再三のお説いで我が三ヶ日クラブは初めて参加する事にしました。

一ヶ月間に二回の試合は主婦にとっては大変、家族の協力と理解があつてこそ出られるものです。その応援にも答えられる様、参加するからには県大会出場権を得ようと練習にも熱が入り、全国大会出場経験もある細江クラブのチーム、当日棄権チームもあり、参加チームの少ないのにおどろき淋しい気がしました。

結果は念願かなつて優勝、次は全国大会出場権獲得、夢はひろがります。

全国大会派遣審判委員になつて

審判委員会 山本 悅子

七月二十九日から八月二日までの全国家庭婦人バレー・ボール大会に、全国各ブロックから集合した十八名と共に、派遣審判員として参加しました。この五日間、実技基準統一の為の講習会を受け、その後各会場に分かれて実際に審判を行い、宿舎では毎晩ミーティングが行われました。

第一日目のミーティングでは「今回は講習会ではありません。普段出来ない事を今回やろうなどと考えないで下さい」という瀬藤先

生のお言葉をお聞きし、私は一瞬ドキッとして体の中をカミナリが走りました。いつもの講習会では厳しいながらも絶やされた事のない瀬藤スマイルは陰をひそめ、どこか別人の様でした。

私はこの厳しい態度が「審判員諸君！一つのミスも許されないぞ。審判台へは心して立て!!」という訴えにみえ、いつもと違うのだからしっかりと目を見開かねば、と心中で自分を叱咤しました。

そして、審判長より受けて来た注意一落ち着いてゆっくりと心掛け、深呼吸で自己の調整に努め審判に臨みました。想像はしていましたが県大会とは全く違つた

た雰囲気で、それは素晴らしい体験であり試練の場でした。この何年来これ程までに緊張した事があつたでしょうか。この体験が何かの時、仲間の為、自分の為キラッと光つてこそ参加した意義があると肝に銘じています。又各県から来られた方々との親交は違つた意味で得がたい研修であり、成果があつたと思います。

「バレー・ボール」「審判」と目標を持ち、それに向かっていく事がよりよい運営につながり、更に進歩への足がかりになる事と信じて連盟の一員として発展の為に一層の努力をしていきます。今後共、厳しいご指導をお願いいたします。

●昭和62・63年度 役員●

会長 梶部義彦

相談役 戸本 隆雄 野田 明宏
赤堀 隆治 増田ユキ子

理事長

◎中西 満子(中)

副理事長

◎曾根田佳子(中)

◎大川由美子(東)

◎大橋 なか(西)

(各地区協会)

家庭婦人部長)

監事

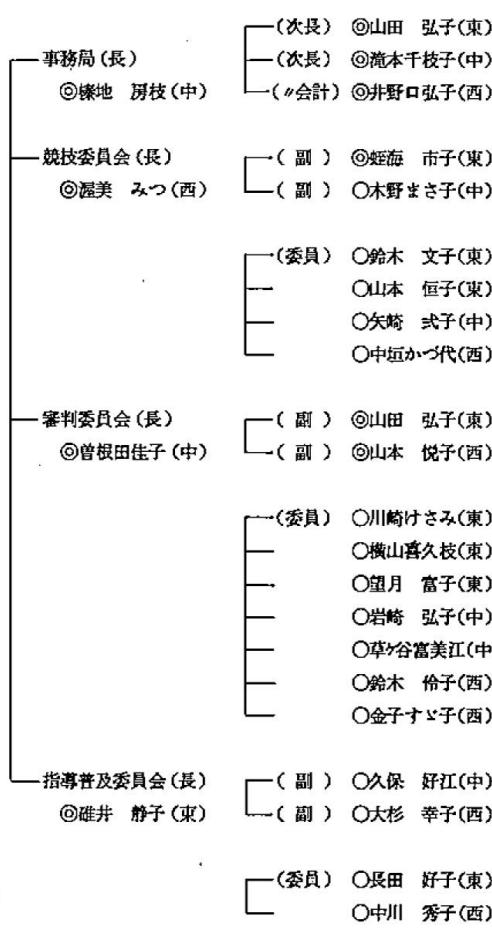
内藤美波子(東)

佐藤 道枝(中)

◎印 常任理事 12

○印 理 事 16

監 事 2



静岡県家庭婦人バレー連盟審判員名簿

(61年度認定)

家庭婦人バレー連盟審判委員として下記73名が昇格、認定されました。

日本バレー連盟B級（向敷地クラブA）曾根田佳子

（西益津球趣会）中西 満子

静岡県協会A級

所属チーム	氏名	地区	所属チーム	氏名	地区
三島中央婦人学級	増田ユキ子	東	栄 クラブ	河守 知代	中
〃	大川由美子	〃	清水飯田クラブ	草ヶ谷富江	〃
長泉クラブ	山田 弘子	〃	清水シースカイ	久保 好江	〃
〃	鈴木 文子	〃	不 二 見	岩崎 弘子	〃
羽衣愛好会	内藤美波子	〃	富塚クラブ	山本 悅子	西
沼津原クラブ	碓井 静子	〃	〃	井野口弘子	〃
熱 球 会	蛭海 市子	〃	浜北球友クラブ	渥美 みづ	〃
第五クラブ	川崎けさみ	〃	高台クラブ	西原 弘子	〃
錦田クラブ	横山喜久枝	〃	磐田クラブ	大橋 なか	〃
向敷地クラブB	滝本千枝子	中	磐田神明クラブ	村上百合子	〃
西益津球趣会	木野まさ子	〃			

静岡県協会B級

所属チーム	氏名	地区	所属チーム	氏名	地区
三島中央婦人学級	池谷ふみ子	東	裾野クラブ	勝呂 節子	東
長泉クラブ	長田 好子	〃	入江同好会	斎藤 靖代	中
徳倉クラブ	市川 環子	〃	清水飯田クラブ	太田 節子	〃
〃	小松美美子	〃	二俣クラブ	長谷川みづ子	西
岩松クラブ	望月 初江	〃	竜洋クラブ	大杉 幸子	〃
〃	望月 富子	〃	〃	鈴木 伶子	〃
松 風	中村祐里子	〃	細江クラブ	金子すず子	〃

静岡県協会C級

所属チーム	氏名	地区	所属チーム	氏名	地区
長泉クラブ	岩下睦子	東	清水飯田クラブ	望月 清美	中
開北クラブ	秋山 久代	〃	〃	徳増なつよ	〃
〃	高田 侑子	〃	鍊クラブ	渡辺 典子	〃
羽衣愛好会	井上 孝子	〃	向敷地クラブC	加藤 友子	〃
睦クラブ	森 布子	〃	榛原クラブ	村松 昭枝	〃
香貫クラブ	山本 恒子	〃	ビクトリー	江野 隆子	〃
江川クラブ	清水 美春	〃	有度クローバー	平野 富江	〃
三島西クラブ	谷村 晴代	〃	岡部ファイターズ	綿間瀬智子	〃
沢田クラブ	南雲 京子	〃	和田クラブ	石川 悅子	〃
〃	竹内 良子	〃	大洲球友クラブ	大塚たつ代	〃
錦田クラブ	大村 恵子	〃	清水西クラブ	加藤富美子	〃
板妻クラブ	藤川 玉喜	〃	二俣クラブ	井口 順子	西
富塚クラブ	藤山八重子	西	〃	中垣かづ代	〃
高台クラブ	肥田 清子	〃	〃	登 朝子	〃
磐田神明クラブ	永田 恵子	〃	磐田北クラブ	福沢富美子	〃
〃	黒岩 久子	〃	河城クラブ	岩水 素子	〃
西益津球趣会	榛地 房枝	中	〃	中川 秀子	〃
〃	渡辺 悅子	〃	竜洋クラブ	中島 初代	〃

今後も、レフリースクール、審判講習会に参加し、機会あるごとに積極的に経験と技術を積み重ねて信頼される審判委員になって下さい。

◎ 山田弘子（長泉クラブ）、山本悦子（富塚クラブ）は日協B級に62年4月に認定されました。

テレビ放映の決勝審判に立つて

いのが審判の仕事のように思う。

「全國家婦人予選の決勝審判を……」と曾

根田審判長から宣告されたのが五月十一・十二日に東京で開催された全國家婦人九人制審判
伝達講習会の会場であった。

「私でなくとも……」、「いいえ、勉強だから頑張ってやつてね」。

確かに勉強にはなるが、テレビ放映という
確かに勉強にはなるが、テレvisor放映とい
うのは少なからず動搖し、両
肩に鉛でも乗せられたようにズシッときたの
おまけつきの審判には少なからず動搖し、両

ははじめに申したような、自分にはそれなり
のキャリアもなし、勿論自信もないのだから
困惑してしまうのが道理である。
困感してしまった。

当日までの一ヶ月間はルールブックが手離
せず、丁度、昨年行われたレフリースクール
の受験日を待つような心境であった。

いざ出陣となり、審判台に上ると頭の中は
雜念で一杯、アレもコレも思つてゐるうち
に一セット目は終了してしまつた。

審判委員会 山田 弘子

毎年のように審判ルールには改正や修正が

あり、年度当初の伝達講習会に始まり、いろ
いろ勉強する機会は与えられるのであるが、

それらを習得するのに、それ相応の場数を

ふまなければならぬ。

講習会に出席したから即、戦力とはいかな

テレビ放映など考えないことだ。自分がこれまで勉強してきたことをやるしかない。そう考えたら少し胸のつかえもありた。そしてネットの向こう側の審判長の笑顔も見えてきて両足も地に着いた。

いろいろな条件の下で、決勝戦の審判台に上るということは、思いもよらぬ抵抗は勿論のこと、主審といいうものの孤独を身にしみて感じた次第である。

今後はこの経験を踏まえ、研鑽を積み、より一層の努力をしていかなければならないと思う。終わりに、この勉強の機会を与えて下さった審判長に感謝したい。

さわやかバレー教室へ参加して

竜洋西堀 鈴木しげ子

この間は、お忙しい中、先生方や役員の皆さんにご指導頂き、ありがとうございました。大変有意義で、楽しい時間を過ごす事ができました。

バレーボールを始めた九年目になろうとしていますが、私達のチームは、学生時代はバレーに無縁の人ばかりの集まりです。監督、コーチや、竜洋クラブの大杉さんに教わるのですが、基本をみっちりやって無いので、やはり自己流になってしまいます。

私自身、アンダーだけは誰にも負けないと思つて、今までやつて来ましたが、広瀬さんによく「腰が高い」と言われ、初めて自分の悪い所がわかつたような気がします。（受けた後、体が後へ行つてしまふ）

とにかくバレーの腕を上げるために、や

はり基本に忠実にやるしかないと、改めて思いました。もっと早くバレー教室に参加していたらと、反省するばかりです。

この先、自分自身が、チームが、どうしようも無くバラバラになった時、先生方や広瀬さん、仲本さんが教えてくださった基本に返つてやつて行こうと思ひます。ありがとうございました。

有意義だったバレーボール教室

河城クラブ 中川 秀子

体育館に入った時、肌寒い風が吹いていたのに、教室が進むにつれて汗をしつかりかいてしまいました。

広瀬さんは全日本では小柄な方なのに、そばを通るととても大きく、圧倒されそうな気がしました。でも二度と広瀬さん、森田さんのコーチを受ける機会はないかも知れないのに、一つ一つの言葉を聞きもらえないよう一生懸命に聞きました。

広瀬さん、森田さんが対人パスをして見せてくれた時、腕に磁石でもついているのではないかと思わせるようで、私達も基本になるオーバー・アンダーパスを初心に返つてしまつかりやらなければと思いました。今までテレビで二人のすばらしいプレーをたくさん見てきましたが、私達もその何分の一でも近づけるように、これからも練習に励んで行きたいと思います。

時間があれば、もともと色々な事を教えていただきたかったのですが……。とにかくバレーを通して楽しく、すばらしい四時間と共にかくバレーの腕を上げるためには、や

を過ごせた事は決してむだな事ではないと思います。

もし、また機会があれば、チームの人達、多くの人達にも出席して、勉強してもらいたいと思います。

◆連盟のバレーボール教室に参加して◆

きたごうクラブ 室伏 芳枝



今回「バレーボール教室」があると聞いて「基本をしつかり勉強すれば、うまくなるかもしれない！」とはりきって家を出たもの午前中は普段使わない頭ばかり働かせる事が多く、これがバレーになんの関係があるの？……ともらしたくなるのを我慢していました。終つてみると、なんか変わつて楽しかったナース」という気持ちで、高木先生が言つたんだ!!と気づいたのです。

今までの練習は主将に頼りきつていたし、自分の欠点を見つけてもらい直すという感じで、ただ好きだから強くなりたい！というだけの気持でした。しかし、これからは教えてやるバレーから抜け出して、自分達で楽しみながらも積極的に考えてやるバレーをしてなくてはいけないという気持になりました。

そして、今回参加して、何よりうれしかった事は、他のたくさんのチームの人達と知り合えた事です。今度、何かの大会で会つた時はきっと気軽に声をかけられると思います。ちょっと変わつた教室を開いてくれた高木先生、本当にありがとうございました。

そして、私と一緒にがんばつてくれたみなさん、また会いましょう！

昭和62年度 県大会成績結果

月日	大会名	1位	2位	3位
5/5	真田杯	清水シースカイ	栄クラブ	西益津球趣会
6/14	全国大会県予選	静岡観山マミー	下田球友会	するがクラブ
6/28	東海家庭婦人	清水西クラブ	函南クラブ	静岡観山マミー
11/1	県選手権大会	細江クラブ	栄クラブ	清水西クラブ
				清水飯田クラブ

第14回 東海家庭婦人バレーボール大会

期日 昭和62年11月3日(火) 会場 三重県久居市総合体育館

1回戦 安城サルビア(愛知) 2(14-21, 21-17, 21-19)1 清水西クラブ(静岡)
 1回戦 美旗クラブ(三重) 2(21-18, 10-21, 25-23)1 函南クラブ(静岡)



清水西クラブ、函南クラブ、県代表2チームの成績は上記の通り、どちらも手に汗をにぎる白熱したすばらしい試合でしたが、健闘むなしく上位進出できませんでした。

この一年を振り返って

清水西クラブ 加藤千穂子

充実した一年を過ごせ、満足感と喜びで一年を振り返ることができ、とても嬉しく思います。念願だった“さわやか杯”に優勝することができたのは、思い出すだけで胸が熱くなります。

チーム結成から七年になりますが、

今年はチーム全員とても気合が入り乗ついたように思います。それは毎回の練習に表われていました。「少しの時間でもいいからとにかく練習に顔を出す」をモットーとして、監督、コートの下練習に熱が入りました。

私は主婦ですから家事や育児に追われる毎日です。週一回の練習はチムメイトと和気あいあい楽しい時間であり、何よりもボールに向かっていく瞬間、何もかも忘れ頭の中はバレーボールだけ。そんな緊張感がとても好きでやめられません。

今年は“真田杯”こそ不本意な成績でしたが、その他の試合は、練習の成果が十分に出て満足の行く一年でした。締め括りとも言える東海家庭婦人大会は、三重県の安城サルビアと対戦し二対一で敗けてしまいました。今大会は以前よりもレベルアップしていく、どの試合も接戦でした。本県の役員の方々も多数お見えになり、声援を送りましたこと感謝いたします。

来年もまた出場できるように、また一からやり直しです。冬の練習も一段と熱が入ることでしょう。
 「よし来年もがんばるぞ！」
 家族の声援が何よりも心強い私です。

編集後記

年々歳々、花相似たり、歳々年々、人同じからず

県協会、家婦連盟もトップがあり、根本は変らなくとも、味付けに変化が出るでしょうか？

各市町村協会の充実はよろこばしい事ですが、地元優先で、県登録チームに影響を与え、このままでは今までの延長線上に将来を求めるわけにはゆかなくなってしまうでしょう。

幸い、連盟もここ数年、ようやく独自で大会が持てるようになり、選手の意識も向上し、魅力ある連盟のあり方を真剣に考えて話題、議題としています。

その気持を、ご意見を連盟によりに盛り込み、より身近なものにしてい、と思いましたが果せませんでした。次号はぜひ活躍の記事と、お気持ちをお寄せ下さい。

(瀧本)

